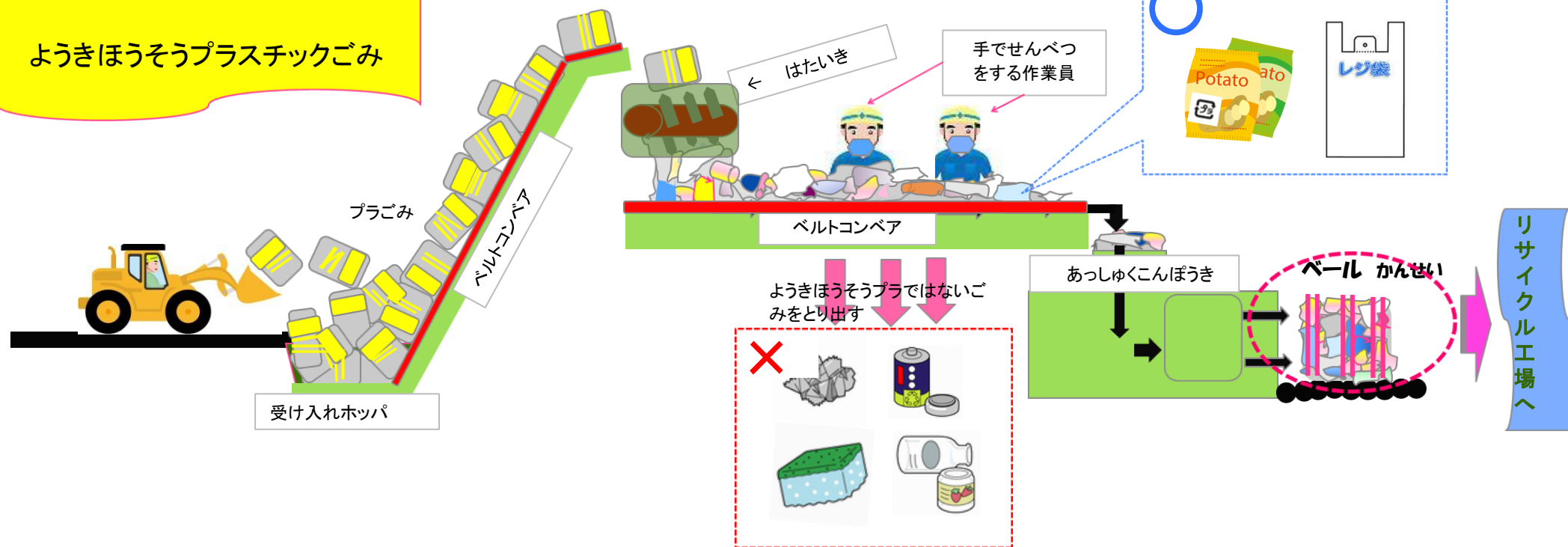


ようきほうそうプラスチックごみ



ようきほうそうプラスチックごみのしゅ理について(1ページの図を見ながら、読んでください！)

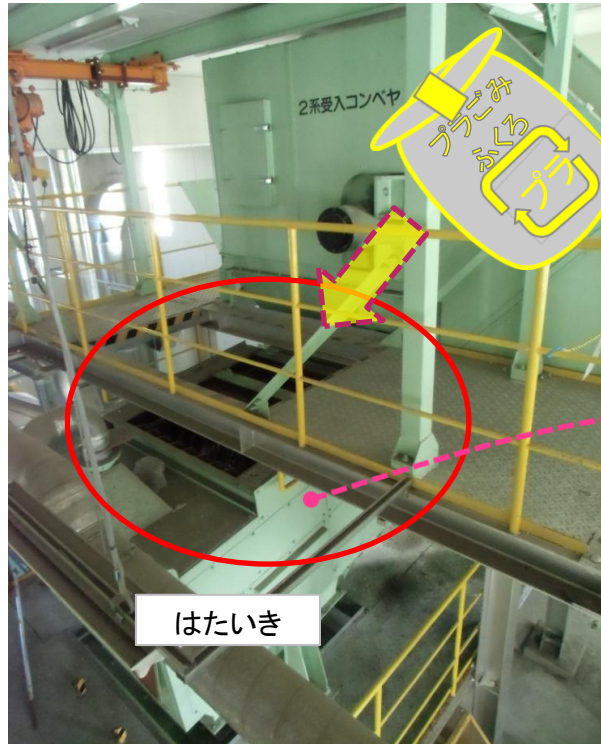
1 ごみを下ろす

ようきほうそうプラスチックごみ(ここから先は、「プラごみ」と書きます)は、まず、受け入れヤードという場所に下ろされます。そこから、受け入れホッパに、フォークリフトを使って運びます。



2 ごみぶくろをやぶる(プラごみのみ)

その後プラごみは、ベルトコンベアをつたってはたいきに運ばれます。はたいきは、プラごみが入った黄色いぶくろをやぶいて、プラごみだけを取り出すきかいです。



ちなみに漢字では「破袋機」と書きます。
「袋(ぶくろ)を破く(やぶく)機械(きかい)」という意味です。

中
の
よ
う
す



はたいきの「は」です。

3 手せんべつ

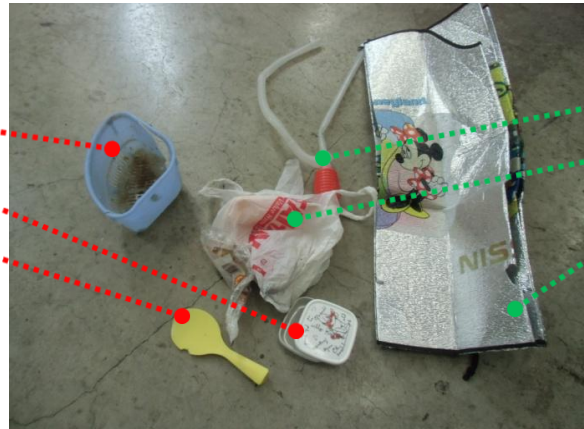
ふくろから取り出されたごみには、かねんごみやふねんごみなどの分べつされていないもの、また歯ブラシやポリバケツのようなプラスチックせい品そのものも多く入っています。そのため、4人の作業員が手でプラごみではないものを取りのぞいています。この作業を手せんべつといいます。



プラごみにまざっていた物です。これらは、かねんごみとふねんごみです。リサイクルの対しよう外です。

ふねんごみ

せいひんそのものは、
プラスチックでも対しよう外です。

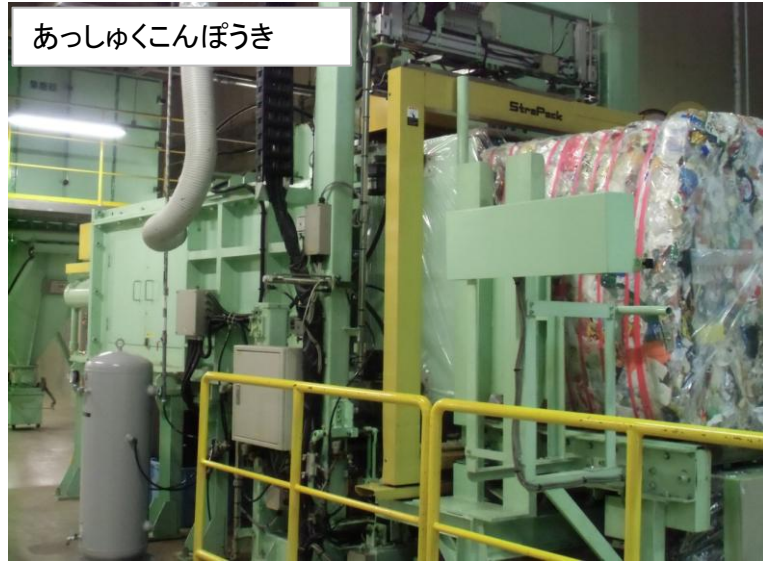


かねんごみ

よごれているレジぶくろは、リサイクル出来ません。

4 ベールを作る

プラごみは、その後、「あっしゆくこんぼうき」にかけられます。ぎゅっと、おしつぶします。そしてふくろに入れ、ビニールひもでしっかりまいて、大体、たて1m×横1m×高さ1mの大きさで、さいころのような形にします。出来上がったものをベールと言います。ペットボトルも同じようにせい形してベールを作ります。



ベールは出来上がったじょうたいで、工場のすみにまとめておいておきます。



たて・横・高さがやく1メートル。
重さは1つあたり、やく300キログラム。



たて・横・高さがやく1メートル。
重さは1つあたり、やく170キログラム
1コのベールには、約2800本のペットボトルが入っています。

5 ベールのゆくえ

出来上がったベールは、リサイクル工場に運ばれて行きます。プラごみは32こ、ペットボトルは36こずつです。



フォークリフトを使って、すきまがないように積みます。

6 リサイクル

プラごみは、ボールペンやマジックなどの文ぼうぐ、プランターのたななど。ペットボトルはワイシャツやさぎょうぎなどにリサイクルされています。



木のように見えますが、じつはプラごみをリサイクルしたものです。

長野市清掃センター
平成28年3月